台所櫓（重文）　天守（復元）　高欄櫓（重文）

●大洲城

大洲城は明治21年（1888）、惜しくも天守が取り壊されてしまいましたが、4棟の櫓は解体をまぬがれ、いずれも国の重要文化財に指定されています。4層4階の天守は、明治期の古写真や「天守雛形」と呼ばれる江戸期の木組模型などの史料をもとに平成16年（2004）に木造で復元されました。

●復元天守の内部

使用した木材は全て国産材。城郭建築特有の迫力ある木組みが見られます。特に1,2階は他の城にない吹き抜けの構築が施されています。

周辺案内図

観覧時間

午前9:00～午後5:00　※札止午後4:30
休日（無休）

観覧料

●普通観覧料
大人 ¥550　小人 ¥220（中学生以下）

●共通観覧料（大洲城－臥龍山荘）
大人 ¥880　小人 ¥330（中学生以下）

●共通観覧料（大洲城－臥龍山荘－盤泉荘）
大人 ¥1,100　小人 ¥440（中学生以下）

1.保護者が同伴する5歳以下の幼児は無料です。
2.大洲市内に住所を有する65歳以上の方は無料です。
3.身体障害者手帳、療育手帳または精神障害者保健福祉手帳を所持する方とその付添いの方1名は無料です。
4.20人以上の団体の方は2割引です。

大洲城：愛媛県大洲市大洲903番地　TEL0893-24-1146（イイシロ）

大洲城

六万石

清流肱川の畔（ほとり）に城が築かれ
多くの武将達が主となった大洲城
その天守が明治期に姿を消して百余年…
再び四層四階の木造天守が
威風堂々とした往年の姿で甦った

〈大洲城HP〉

大洲城年表

鎌倉 室町	元弘元年(1331)	宇都宮豊房が地蔵ケ岳に城を築く
安土・桃山	天正13年(1585)	羽柴秀吉の四国平定後、道後湯築城を本拠とする小早川隆景の枝城となる
	天正15年(1587)	戸田勝隆16万石で大洲に入城。宇和郡、喜多郡が領地となる
	文禄4年(1595)	藤堂高虎7万石で板島に入城。大洲は蔵入り地となり高虎が代官となるが、すぐに大洲を居城とする
江戸	慶長14年(1609)	脇坂安治が洲本より大洲に入城。喜多、浮穴、風早三郡において5万石余を領する
	元和3年(1617)	加藤貞泰が米子より大洲に入城。喜多郡、浮穴郡、風早郡、桑村郡などの内6万石を領する
	享保7年(1722)	三の丸南隅櫓焼失
	明和3年(1766)	三の丸南隅櫓再建される
	天保14年(1843)	苧綿櫓再建される
	安政4年(1857)	地震により、台所櫓、高欄櫓が大破する
	安政6年(1859)	台所櫓再建される
	万延元年(1860)	高欄櫓再建される
明治 大正 昭和	**明治21年(1888)**	**海南新聞10月23日付けに、天守の取壊し作業が始まる記事が掲載される**
	昭和28年(1953)	大洲城跡が県指定史跡に指定される
	昭和32年(1957)	台所櫓、高欄櫓、苧綿櫓及び三の丸南隅櫓が重要文化財に指定される
	昭和34年(1959)	苧綿櫓の解体修理を完了、土台の石積みを2.6メートルかさ上げする
	昭和40年(1965)	三の丸南隅櫓の解体修理が完了
	昭和45年(1970)	台所櫓、高欄櫓の解体修理が完了
平成	**平成14年(2002)**	**天守復元工事起工**
	平成16年(2004)	**天守復元工事完成**

藤堂高虎

脇坂安治

加藤貞泰

三の丸南隅櫓
(大洲城現存最古の建物)

苧綿櫓

台所櫓

高欄櫓

天守の復元

基礎から完工まで史実の考証を重ね、木材の選択、その工法、木組、また、壁、瓦等外部はもとより、内部に至るまで、当時の技術、工具にこだわって忠実に復元されました。

「御城中御屋形絵図並地割」部分(加藤家蔵)
大洲藩主であった加藤家に残る多くの絵図のひとつ。天守や多聞櫓の間取りが描かれている。

天守雛形(市指定文化財・市立博物館蔵)
大洲藩作事方棟梁であった中野家に残されていた天守の木組模型。天守の構造の概要を知る手がかりとなった。

明治時代に撮影された写真
天守の外観を知る上で、写真は第一級の資料である。大洲城天守は3方向から撮られた写真が残っており、この北面の写真は特に鮮明で石垣の石の形や垂木の本数まで確認できる。

伝統技術を受け継ぐ

大洲城天守の復元は、慶長年間(1596～1614)に建てられたといわれる天守を現代によみがえらせる事業です。それは、当時の技術を再現することにほかなりません。この目的のため、多くの人々が様々な分野で挑戦し、その成果が4層4階の天守に結実しました。今後この技術を後世に受け継いでいくことが、私たちに課せられた大切な使命なのです。

建て方工事
富山県南砺市(旧井波町)の宮大工と地元の大工たちの見事な協同作業。 職人たちが息を合わせ木組みを完成させた。

左官工事
壁は、下地に竹小舞を組み、その上に何度も壁土を重ねる。白い漆喰仕上げまでに7～8工程を要す。

屋根工事
屋根瓦には、寒さに強い岐阜県産の燻し瓦を使用した。大洲城天守は破風が多く屋根を葺くのが難しい。天守4層にある丸みを帯びた唐破風は、職人の腕の見せ所。

和釘製作
長押や垂木に使用した和釘は、松山市出身の鍛冶師白鷹幸伯氏が古来の工法にならい純鉄から製作した。